

第5回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 視察研修 報告書

※敬称略

1 日 時 令和元年12月26日(木) 10:00~18:00

2 視 察 先 東京都 西東京市

3 日 程 10:00 出発 御殿場市役所 本庁舎玄関前
12:00 西東京市役所(田無庁舎) 到着、一旦解散し自由行動(昼食)
13:30 視察 西東京市役所 生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課
西東京市 市民協働推進センター「ゆめこらぼ」
18:00 到着 御殿場市役所 本庁舎玄関前

4 参 加 者 15名

市民協働型まちづくり推進協議会委員 芹澤(直)、岩淵、渡邊、児島、鎌野、刈山、
勝亦、山本、杉山、芹澤(知)、勝又

御殿場市民活動支援センター 石井、前田

市民協働型まちづくりアドバイザー 吉澤(※牛山教授代理)

市民協働課(事務局) 浅野、小長井

5 視察内容 (1)西東京市 協働コミュニティ課 13:30~

対 応 : [西東京市役所] 白井課長、貫井、羽石、東
[西東京市市民協働推進センター] 小松センター長

内 容 : (1)西東京市の市民協働推進の取り組みについて
・「基本方針」改定の背景について
・「基本方針」改定の考え方、進め方、今後について
(2)NPO等企画提案事業について
・制度の目的及び内容について
(3)西東京市市民協働推進センター「ゆめこらぼ」の取り組みについて
・協働を担う人材の育成の取り組みについて

(2)西東京市 市民協働推進センター「ゆめこらぼ」15:10~

対 応 : [西東京市市民協働推進センター] 小池センター長 ほか

内 容 : ・施設の概要説明
・市民協働推進センターの業務、事業について

6 視察状況



【御対応いただいた西東京市の皆様】



【渡邊会長からの挨拶】



【視察研修の様子①】



【視察研修の様子②】



【「ゆめこらぼ」小松センター長の説明】



【「ゆめこらぼ」見学の様子】

7 感想

〔芹澤(直)委員〕

- ・基本方針にイラストが入っていてわかり易い。例えば中学生程度でも理解できる、読みやすい構成・文体に。
- ・指針の文面を改訂するだけでなく、「協働推進員」のような意識改善に繋がるシステムづくりを考えては。
⇒現在の「庁内推進員」は形骸化しているようなので、今一度テコ入れを。
- ・西東京市は、市民への「協働」というキーワードの目に見える発信がよくできている。自分自身が今まで「協働」を目にすることがなかったのも、まず目につくことが肝要ではと感じる。
- ・おしなべて分かりやすさ、伝わりやすさに対する努力が、御殿場市に必要なのでは。

〔岩淵委員〕

西東京市の協働型まちづくり推進がとても活発で、一定以上の成果が出ているという雰囲気を感じることができました。

◎基本方針について

改定された基本方針は読み手(市民団体)を引き込む多くの工夫と配慮が多く、多くの工夫と配慮がされていました。お互いのメリットが協働の形態などとてもわかりやすいと思います。

- ・5つの基本方針に対してのコミットメント

基本方針それぞれに「これらについて取り組みます！」という、どちらかというと市サイドのコミットメントがされている。決意表明の様で協働に対するやる気を感じる。

- ・基本方針の前文として、具体的な協働件数目標の提示がある。

「協働件数、平成30年には130件、平成35(2023)年には160件」。

これも本気でやろうという姿勢がうかがえました。

◎新規チャレンジ部門募集の「募集テーマ」について

自由テーマだけでなく、敢えて「テーマ」を設定することで、参画するきっかけにしていると思います。

◎募集案内のスケジュール

応募から8か月の流れ・スケジュールがあり、とても分かりやすいです。

協働型まちづくりを推進していく上で、基本方針や募集の案内など工夫が必要。まずは市民・団体目線で、参画しやすいよう、敷居を下げ、歩み寄るスタンスが必要に感じました。

〔渡邊会長〕

- ・イラストを使うなど分かり易い基本方針は参考になりました。
- ・教育関係が協働事業に取り組んでくださるようになるにはどうすれば良いか検討していきたいと思いました。
- ・庁内推進員と協議会委員の交流を検討していただきたいと思います。

〔児島委員〕

- 1 指針の改定にあたっては、市民目線で読みやすい、理解しやすい内容と市、現状に合った表現に(担当部署の変更等)見直しをする。
- 2 補助金については、年度内に申請・受付・審査・決定し、年度初め(4月)に助成を開始し、活動始める方式に早期に移行すべきと思う。

〔鎌野委員〕

市民協働という言葉がなかなか私の中に入らず戸惑っていましたが、視察先の印刷物を見たり係の方から説明を聞き、理解できてきました。特に文字ばかりでなく、イラストを見た時に、このように絵にして頂くとわかり易いと思いました。

取組も様々に行われていることや、協働を進めていくと市民活動が活性化されるのではと思いました。

「ゆめこらぼ」には、ちょっと立ち寄れる所感があり、何回か足を運ぶと居心地の良い場所となり、色々な情報交換の場所となるのではと思いました。

〔刈山委員〕

- ・明らかに現状に合っていないものを改訂
- ・協働推進員の配置(各課に1~2名)
⇒市役所全体を巻き込んだ体制、勉強会を実施
- ・協働で目指すまちづくりの姿(イラスト)見やすく、伝わりやすく
- ・振り返りの原則 ⇒ 活動団体、担当協働課、市民委員、協働課

良い取り組み

〈企画提案事業〉

- ・継続部門(最長3年)
- ・新規部門(自由型/テーマ設定型)⇒市から考えやすく、市民の力を借りたい事業
⇒協働課が庁内で協働できるものをピックアップ
テーマを庁内で募集 ⇒ 意見交換会を実施

どうしたら増えるのか…
考え方、行動を変える

-
- ・今後の課題として、市民の皆さんに協働とは何かを分かりやすく、伝わりやすくしていく必要がある。
 - ・多くの協働事業の募集を募るため、市役所全体(市民委員も含む)を巻き込み、協働事業となるものをピックアップ
 - ・協働事業の募集が多くなるにはどうすれば良いかを考える。

〔杉山委員〕

年末にもかかわらず、西東京市や「ゆめこらぼ」の職員が本当に誠実に対応していただいたことが有難かったです。特に説明していただいた担当者のユーモアを含めて一生懸命に説明される姿に、自分の業務に対する誠意と誇りを持っておられると痛感いたしました。

さて、視察で感じたことですが、西東京市の市民協働を推進していく取り組みについては、抱える人口規模や予算などは当然違いますが、実際にやっていることは西東京市も御殿場市もそれ程大きな差はないなということです。制度や仕組みが同じようなら、あとはまちづくりを推進していく行政、市民や団体などのやる気なのかなと思います。

「基本方針」の改定にしても改定することが目的ではなく、市民協働型まちづくりを推進していくための手段にしていくことが大事であり、市民協働型まちづくりに携わっている行政、市民、団体等以外の方々をいかに巻き込んで、その輪を広げていくかが重要です。そのためには広報や啓発活動なども分りやすくする更なる工夫が必要ですし、西東京市の資料の中にも大いに参考になる部分がありました。

そして、地域社会で困っていること、悩んでいることをうまく市民協働型まちづくりのテーマと結び付けて、皆でその対応や取り組みを考え実践していくことができればいいなと思います。

〔市民活動支援センター 石井〕

市民活動団体の支援に対して行政と協働する大切さ、イベントも実行委員会とともに実行するなど、皆が積極的に動ける工夫が良かったと思います。

チラシなども豊富で見やすく配置されており、また、小松センター長が明るく楽しく仕事をされているところなど、見習いたいところが多くありました。

〔市民活動支援センター 前田〕

「ゆめこらぼ」の見学ができてよかったです。コンパクトさの良さもありますが、ふじざくら(※市民活動室)の恵まれた環境をより活かす為の工夫を考えるきっかけになりました。

市民協働を実践する場としての御殿場市民活動支援センターとして、いかにあるべきかを考える機会にしたいと思います。

誰かがやる市民協働ではなく、何かの時の市民協働にするために一助になれるように頑張ります。

〔市民協働課 小長井〕

西東京市では「協働」について理念やビジョンを明確にされ、特に「市民に知ってもらいたい」という視点を持って対応されていると感じました。同時に、当市の協働の推進に欠けている部分もまさにその点にあるのだと痛感します。

委員の意見・感想にもあるとおり、当市でも他市町に先駆けた取り組みは行っていますが、上手く機能できていない、また十分に市民に知っていただけていない現状を踏まえ、工夫・改善を図っていきます。